

## 「震災 世界で生かして」 小松左京さん 生前に



災害を描いたベストセラー「日本沈没」で知られる作家、故小松左京さんの思い出を交えながら、震災の記憶を将来にどう残すかを語る催し「小松左京の遺（のこ）したもの」が21日、仙台市泉区の県図書館であった。仙台市在住の作家瀬名秀明さん、東北大教授で作家の圓山翠陵（まるやま・すいりょう）さん、小松さんの元マネージャー乙部順子さんが約90人を前に語り合った。

### 作家ら3人、思い出と教訓語る



左から乙部順子さん、  
瀬名秀明さん、圓山翠  
陵さん。仙台市泉区

房総半島にある小松さんの父方の家は、幕末の安政大津波で被災した。乙部さんは、小松さんが作家デビューの前にも人工地震装置を漫画に描くなど、災害への関心が高かったことを紹介。亡くなる4カ月前に起きた東日本大震災では、テレビ映像を見ながら「世界中の人に見てもらって、生かしてもらわなければ」と話していたという。

圓山さん、瀬名さんは、原発事故の教訓について語った。事故を再現した小説を書いた圓山さんは、「データを理解してもらえるよう、わかりやすくかみ砕くのが大切だ」と強調。瀬名さんは「物理的現象としての災害だけでなく、そのときに人間がどう動いたかを継承することが必要」と話した。

県図書館では27日まで、小松さんの直筆原稿などを展示した企画展が開かれている。

(小宮山亮磨)